

生涯をささげ大きな功績を残し、鉄道の父とうたわれる人。山口県の出。井上勝の第3子に生れ、6才の時、野村家の養子となり弥吉とよんだ。21才(文久3)の時、伊藤俊輔(後の博文)等とともに脱藩、国禁をおかして渡英、鉱山と鉄道を専門に研究した。明治元年帰朝。旧姓にかえる。造幣頭ならびに鉱山正に任ぜられた。鉄道の建設がはじまるとともに鉱山頭兼鉄道頭、ついで専任の鉄道頭となり、



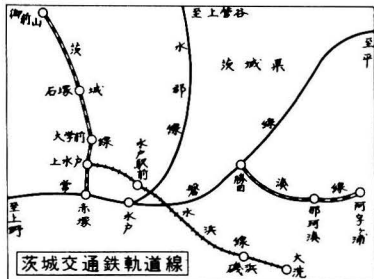
井上 勝

その後鉄道局長、鉄道庁長官を歴任、明治26年まで長官の職にあった。この間京浜間、上野・仙台間、長浜・敦賀間、東海道線建設に陣頭指揮したが、中でも東海道線の建設は彼の身とたましいをうちこんだ最大の業績。また彼は終始鉄道国有論を堅持し、しばしば鉄道私設の非を上申した。なかんづく明治24年「鉄道政略ニ関スル儀」は、鉄道敷設法の母体となった重要建議。退官後鉄道会議議員となったが、明治29年汽車製造合資会社を起しその社長となり国産機関車の製造に努めた。明治39・5鉄道5,000マイル祝賀会が名古屋で行われた際は伊藤博文、大隈重信とともに鉄道功労者として、頒(しょう)功表の贈呈を受けた。明治42年帝国鉄道協会会長。43年鉄道院顧問として欧州視察の途にのぼったが、途上ロンドンにおいて病にかかり、8・2同地に客死。68才。(中村英男)

いばらぎこうつう 茨城交通(鉄道、軌道)

1 事業者の概要

名称 茨城交通株式会社、本社 茨城県水戸市柵町、資本金 10,890万円、おもな事業 地方鉄道、軌道業のほか一般乗合旅客自動車運送事業
路線 634km。鉄道 軌道従業員 456人、保有車両 蒸気機関車 5、内燃機関車 1、電動客車 38、内燃動車 8、客車 16、貨車 58両。



沿 線 昭和19・

8 地方交通事業統

合の必要により水浜電車株式会社(上水戸・大洗間軌道、会社設立大正10・8)、湊鉄道株式会社(勝田・阿字ヶ浦間鉄道、会社設立明治41・3)、茨城鉄道株式会社(赤塚・御前山間鉄道、会社設立大正12・8)および袋田温泉自動車株式会社が合併して資本金500万円の茨城交通株式会社となった。

2 地方鉄道線

開業線 茨城県下、常磐線赤塚駅、勝田駅に連絡し、茨城線、湊線の2線を有し延長39.5kmの単線、軌間1.067mで旅客・貨物運輸の鉄道である。茨城線赤塚・御前山間25.2kmは動力は電気・蒸気および内燃、大正10・2・21免許、同15・10・24赤塚・石塚間を運輸開始し、その後阿波山、御前山に延長、昭和2・3・26全通した。湊線勝田・阿字ヶ浦間14.3kmは明治37・3・4、昭和3・5・10の間に3回の免許を受け、大正2・12・25勝田・那珂湊間を運輸開始、その後磯崎、阿字ヶ浦に延長し、昭和3・7・17全線開通した。

3 軌道線

開業線 常磐線水戸駅に連絡し、水浜線上水戸・大洗間17.9kmの単線、動力は電気、軌間は1.067m、併用(3.8km)と新設(14.1km)軌道で旅客運輸を目的としている。大正9・8・30、

昭和18・5・19の間5回の特許を受け、大正11・12・28浜田・磯浜間を運輸開始、その後逐次延長、昭和19・8・1全通した。

4 沿線の観光地

御前山(御前山駅)、阿字ヶ浦(阿字ヶ浦駅)。

5 鉄道運輸概況

項 目	年 度		
	昭 和 28	29	30
旅客輸送人員(千人)	3,569	3,664	4,004
人 キ ロ (千)	23,175	23,762	26,952
貨物輸送トン数(千t)	135	142	155
ト ン キ ロ (千)	1,152	1,206	1,387
旅 客 収 入(千円)	59,758	60,741	66,776
貨 物 収 入(〃)	19,550	19,966	21,764
運 輸 雑 収(〃)	2,229	2,233	1,423
収 入 合 計(〃)	81,537	82,941	89,963
営 業 費(〃)	80,971	90,538	100,351
営 業 利 益(〃)	566	△ 7,597	△ 10,388
営 業 係 数(%)	99	109	108

6 軌道運輸概況

項 目	年 度		
	昭 和 28	29	30
旅客輸送人員(千人)	8,628	9,207	9,623
人 キ ロ (千)	37,194	34,987	36,329
旅 客 収 入(千円)	89,632	90,296	95,073
運 輸 雑 収(〃)	773	742	706
収 入 合 計(〃)	90,406	91,038	95,779
営 業 費(〃)	74,062	82,833	84,526
営 業 利 益(〃)	16,344	8,205	11,253
営 業 係 数(%)	82	91	85

(石川 貢)

いぶしけんさ いぶし検査 探傷法の一つで車両とくに機関車の検査において、部分品のキズの有無を見出すために検査しようとする部分をガスランプなどの焰で軽く加熱する検査法である。

一般にキズ部分には油がしみ込んでいるから、もしキズがあれば黒くいぶした部分に細く油の線を生ずることにより容易にこれを発見することができる。油気のない部分であれば、検査しようとする部分に石油または軽油を塗布して十分にしみ込ませ、前記同様の方法で探傷する。この方法は簡単で確実性が多分にあるので広く用いられている。

最近ではさらに検査精度を高めるために電磁探傷器や超音波探傷器等が一部に使用されている。(麻田武公)

いぶすきせん 指宿線 鹿児島本線西鹿児島駅から鹿児島湾にそって南下し、湾口の近くに位する山川駅に至る50.0kmの線。鹿児島線に属する簡易線。

昭和5・12鹿児島と指宿を結ぶ鉄道として西鹿児島・五位野間開通指宿線と呼称、昭和9・12五位野・指宿間開通、さらに昭和11・3山川まで開通したものである。(森 悌寿)

いぶりせん 胆振線 室蘭本線伊達紋別から羊蹄山東側を過ぎて函館本線倶知安に至る83kmの線。ほかにこの線の京極から分岐し、脇方に至る7.5kmの枝線を含む。

この線は倶知安・京極間は京極軽便線として大正8・11開通、京極・脇方間は大正9・7開通した。京極・伊達紋別間は胆振縦貫鉄道株式会社線として昭和15・12伊達紋別・新大滝間、昭和16・8新大滝・京極間が開通したが、昭和19・7胆振縦貫鉄道株式会社線の買収により京極線と合わせて胆振線と称することとなったものである。線名は経過地胆振国名からとった。(森 悌寿)